

速度違反取締りによる速度抑制効果

- ・ 愛知県警では平成29年に導入した可搬式速度違反自動取締装置の効果検証を行ったところ取締りの前後で比較すると実勢速度の低下が認められました。

取締前 平均44.0km/h→取締後 平均41.2km/h

- ・ 速度違反取締りを実施することで、速度が抑制され道路の安全性が高まります。



愛知県警察では、速度違反取締りによる速度抑制効果を発揮させるため

- 固定式速度違反自動取締装置
- 可搬式速度違反自動取締装置
- 定置式速度違反取締装置
- 追尾式速度違反取締り

を用いて、それぞれに適した場所、時間帯を選定して取締りを行い、速度抑制による交通事故の削減と、交通事故発生時の被害軽減を図ります。



固定式速度違反
自動取締装置



可搬式速度違反
自動取締装置



定置式速度違反
取締装置



追尾式速度違反取締り

愛知県警察では、悲惨な交通事故を抑止し、被害者を1人でも減らしていくために、速度違反取締りのほか、下記の交通指導取締り活動を推進していきます。

- ・ 交通事故の発生状況を分析し、事故が多発する時間帯や場所における取締りを強化します。
- ・ 横断歩行者等妨害等、携帯電話使用等、自転車による交通違反に重点を置いて取締りを行います。
- ・ 子供や高齢者を保護するため生活道路を中心に通行禁止や指定場所一時不停止などの取締りを強化します。
- ・ 飲酒運転や無免許運転などの悪質な違反には、その同乗者や車両の提供者の含めて、捜査を徹底します。

※ 実勢速度は、指定30キロ規制の道路における平成29年中の取締実施前後における当該取締場所の通過車両の85パーセンタイル値により決定しています。